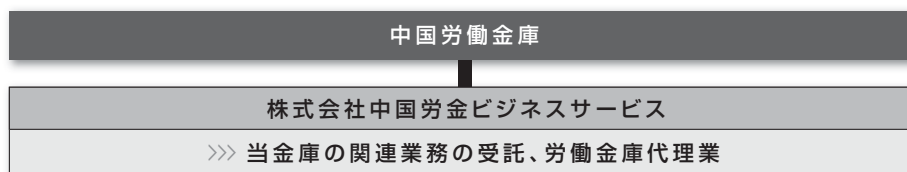


連結情報

● 金庫およびその子会社等の主要な事業の内容および組織の構成



● 金庫の子会社等に関する事項

名称	株式会社中国労金ビジネスサービス
所在地	広島市南区稲荷町1番14号
資本金または出資金	50百万円
事業の内容	従属業務、付随・関連業務、労働金庫代理業
設立年月日	平成25年10月1日
金庫が保有する子会社等の議決権の総株主または総出資者の議決権に占める割合	100%
金庫の一の子会社等以外の子会社等が保有する当該一の子会社等の議決権の総株主または総出資者の議決権に占める割合	—%

● 金庫およびその子会社等の事業の概況

▶ 純資産

当金庫と株式会社中国労金ビジネスサービスを連結した結果、連結剰余金は46,503百万円、出資金は7,002百万円となり、純資産は53,770百万円となりました。

▶ 預金

上記連結対象子会社からの預金積金を調整消去した結果、期末残高は1,104,133百万円(譲渡性預金を含む)となりました。

▶ 貸出金

当金庫は株式会社中国労金ビジネスサービスへの貸出金はなく、金庫単体の貸出金残高と変わらず、期末残高は625,538百万円となりました。

▶ 損益

当金庫グループの2016年度の経常収益は16,372百万円、経常費用は14,954百万円となりました。その結果、当金庫グループ全体の経常利益は1,418百万円、当期純利益は967百万円となりました。

▶ 課題

当金庫は、平成28年度を第5期中期経営計画の中間年度として、「助け合いプラン「安心パック」」を中心に、相互扶助により「会員」「構成員」「ろうきん」がつかがる施策を展開するとともに、唯一の勤労者福祉金融機関として、生活防衛や可処分所得向上に向けた生活応援運動の取組みを展開しました。

また、会員・利用者の資金ニーズや融資相談ニーズに最大限応えるべく、インターネットによる各種申込みや営業店窓口時間の拡充、融資制度の拡充により「ろうきん」らしい商品・サービスを提供し、「ろうきんブランド」の構築に取組みました。

さらに、「ろうきん」らしい金融サービスを将来にわたり永続的に提供し続けるため、業務の効率化やコストの見直しを図り、収益力の向上に向けて、効率的な業務運営体制の構築に取組みました。

株式会社中国労金ビジネスサービスにおいては、金庫業務の効率化に向けて受託業務の拡大を図り、より高いサービスの提供に取組みました。

また平成26年11月に開店し、3年度目を迎えた労働金庫代理店については、3店とも来店客が増加し、各地域の「ろうきん運動」の拠点として、機能が向上しつつあります。

● 金庫およびその子会社等の主要な事業の状況を示す指標

項目	(単位:百万円、%)			
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
経常収益	18,647	18,254	17,587	16,372
経常利益	1,051	1,807	1,978	1,418
親会社株主に 帰属する 当期純利益	549	1,297	793	967
純資産額	52,062	52,914	53,404	53,770
総資産額	1,176,470	1,147,968	1,136,715	1,165,528
連結自己資本比率	10.19	10.27	10.33	10.15

注)1.貸借対照表関係の項目については、各年度の期末残高を記載しています。

2.当金庫は、「労働金庫法第94条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、労働金庫および労働金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」により連結自己資本比率を算定しています。

● 連結財務諸表の作成方針

(1) 連結の範囲に関する事項

- ① 連結される子会社および子法人等 1社
会社名 株式会社中国労金ビジネスサービス
- ② 非連結の子会社および子法人等
非連結の子会社および子法人等はありません。

(2) 持分法の適用に関する事項

持分法適用および持分法非適用の子会社および子法人等、関連法人等はありません。

(3) 連結される子会社および子法人等の事業年度等に関する事項

- ① 連結される子会社および子法人等の決算日
3月末日 会社名 株式会社 中国労金ビジネスサービス
- ② 連結される子会社および子法人等の決算日は、連結決算日と一致しております。

(4) のれんの償却に関する事項

該当事項はありません。

(5) 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した剰余金(利益)処分に基づいて作成しております。